

第4回歴史ウォーキング

〜〜 円山公園界限散策 〜

三好資子（北高8期）

平成21年10月18日(日)、午前10時に八坂神社西楼門前に集合。松江から4年連続の参加となる岩成哲男さん(松高9期)や、夫婦での参加もあり、総勢24名。そして今回のガイドを引き受けて下さったのは、新谷勇人さん(松高11期)の友人の荻野晃也先生。先生は京都大学理学部を定年退官された原子核物理学専攻の科学者です。専門外であるにもかかわらず、歴史にも精通されていて、教科書にも載っていないような裏話や、ご自身の説も交えて説明して下さいるので、つい身を乗り出して聞き入ってしまう。

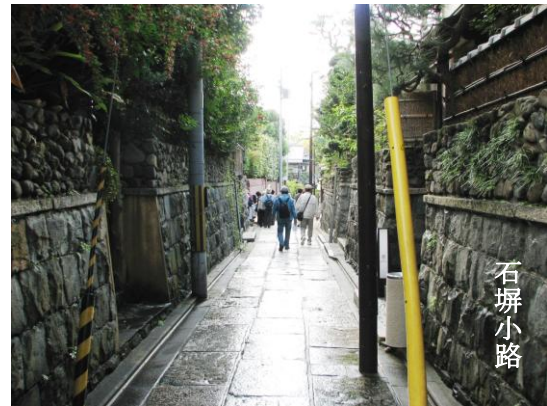
先生が作成されたマップとA4で8枚にも及ぶ説明書を片手に、紅葉にはまだ少し早い京都の円山公園界限を歩いた。観た所を全て紹介すると、膨大な字数になるので、私にとって特に印象に残っていることを記すにとどめたいと思う。

その一つが、八坂神社から高台寺・掌美術館に向かう時に通った「石堀小路」である。

実際には、少し歩いてすぐに「ねねの小径」へと進んだが、両側に佇む家並みのいかにも京都らしい落ち着いた風情には、人の心を和ませるものがある。観光客が余り歩いていないのも良い。

事前に予約しなければ入れない「大雲院」には、あの石川五右衛門の墓があった。

墓石の角が削られているのは、賭け事などをやる人が縁起をかついで削り取って行ったからだとの説明には笑ってしまった。大雲院境内にある祇園閣からは京都市街が一望でき、吹く風も汗ばんだ身体にはとても心地良かった。



実は今でもひとつ気になっていることがある。「芭蕉堂」と「西行堂」に入る門に、個人の表札が掛かっていたように思うのだが、荻野先生はどんどん中へ入って行かれる。更に奥の木戸を開けようとされたが、施錠されていて入れず。どこへ行こうとされていたのかは、午後になって判明。道元の茶毘墓の奥に西行堂の屋根が見えた。あゝ、あの木戸はここに通じていたのだと。

それにしても、あの表札は私の見間違いだったのだろうか。

「知恩院」の鐘楼の奥の長い石段を上っていくと、「法然上人御廟」がある。たまたま納骨される一行と出くわし、納骨式を目の当たりにすることができた。こんな偶然はめったにないことだと思う。

最後に訪れた「青蓮院」では、平安時代から現代に至るまで、境内では開帳されていなかった「青不動」が拝観できるというので、スタート時には私も見学するつもりでいた。しかし、青蓮院に着いたのが午後4時だったので、青不動を観ることもなく家路に急いだ。折角の機会であったのに惜しまれる。殆どの参加者が入館されたと思うが、いかがでしたか？

京都には何度も訪れているが、大雑把な観光しかしてきていない。京都の歴史や地理に詳しい人に案内してもらおうと、またひと味違った京都に出会うことができることを痛感した一日だった。

荻野先生に感謝です！！

《今回の行程》

八坂神社西楼門前〔集合〕→ 八坂神社 → 二軒茶屋・中村楼 → 円徳院庭園前
→ 高台寺・掌美術館 → 竹内栖鳳旧宅 → 高台寺山門 → 法観寺(庚申堂・八坂の塔)
→ 霊山護国神社前 → 高台寺 → 高台寺・月真院 → 芭蕉堂・西行堂 → 大雅堂址
→ 大雲院(石川五右衛門の墓・祇園閣) → 祇園女御供養塔 → 円山公園〔昼食〕
→ 坂本龍馬・中岡慎太郎の像 → 双林寺 → 道元の茶毘墓 → 東大谷祖廟前
→ 長楽寺 → 寺井玄溪の碑「夢」→ 左阿彌(織田道八の墓) → 安養寺(弁天堂・慈円の墓)
→ 知恩院 → 崇泰院 → 瓜生石 → 青蓮院前〔解散〕